

1 事業概要

政策体系		広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策)	2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち	-	学校施設の老朽化による機能低下、破損等について改修を行う。学校からの施設管轄に関する要望や現地調査を踏まえて緊急度・必要性を一件ずつ審査し、優先度の高いものから改修するとともに、校舎トイレの改修や屋内運動場の照明の改修等を計画的に実施する。	老朽化した学校施設の改修や社会環境の変化等に対応するための改修を計画的かつ継続的に改修することにより、児童生徒の安全を確保するとともに教育環境の充実を図る。
章(基本施策)	1個性を伸ばし生きる力を育む教育のまち			
節(施策)	3教育環境の充実			

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
建築後30年を経過した学校施設が大半を占める中で、児童生徒の安全の確保や施設の老朽化への対応が急務となっている。	施設の老朽化は年々進んでおり、より良い教育環境を整備するため緊急的・応急的な改修の必要性が高まっている。また、社会環境の変化に対応するための改修が求められている。	既存の施設の老朽化が進んでいるため、今後も計画的かつ継続的な改修が必要になると予測される。	学校からの施設管轄に関する要望を踏まえ、全体的なバランスを考慮しながら事業を実施している。

2 事業進捗等(指標等推移)

指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
対象指標	公立小中学校	校	89	89	89	89	89	89	84		84		84		84	
活動指標①	各所改修件数	件	68	68	28	28	34	39	60		60		60		60	
活動指標②	校舎トイレ改修系統数	系統	4	4	5	5	1	3	6		6		6		6	
活動指標③	屋内運動場照明改修件数	校	6	6	11	11	10	10	4		4		4		4	
成果指標①	各所改修済件数(累計)	件	652	652	680	680	714	719	774		834		894		954	
成果指標②	校舎トイレ改修系統数(累計)	系統	70	70	75	75	76	78	82		88		94		100	
成果指標③	屋内運動場照明改修件数(累計)	校	8	8	19	19	29	29	33		37		41		45	
単位コスト(総コストから算出)	小中学校1件あたりのコスト	千円		4,345		3,806		2,394	8,479		9,550		9,550		9,824	
単位コスト(所要一般財源から算出)	小中学校1件あたりのコスト	千円		3,466		2,150		2,211	6,435		6,614		6,614		6,667	
事業費		千円		380,552		334,234		203,756	708,000		798,000		798,000		821,000	
人件費		千円		6,194		4,470		9,298	4,220		4,220		4,220		4,220	
歳出計(総事業費)		千円		386,746		338,704		213,054	712,220		802,220		802,220		825,220	
国・県支出金		千円		6,607		594		3,514	72,665		102,664		102,664		107,664	
市債		千円		71,700		146,800		12,800	99,000		144,000		144,000		157,500	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		308,439		191,310		196,740	540,555		555,556		555,556		560,056	
歳入計		千円		386,746		338,704		213,054	712,220		802,220		802,220		825,220	
			実区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
各所改修(一件審査) H29年度 39件(小学校29件、中学校10件) 校舎トイレ改修系統数 H29年度 3件(中学校 3件) 屋内運動場照明改修 H29年度 10件(小学校 6件、中学校 4件)	各所改修(一件審査) H29年度まで 累計719件実施 校舎トイレ改修系統数 H29年度まで 累計 78件実施 屋内運動場照明改修 H29年度まで 累計 29件実施	各学校における改修規模や工事内容等により、事業費の増減がある。 (校舎トイレ改修・屋内運動場照明改修については、大規模改修工事や耐震工事など他事業に併せて整備している場合もあり。)

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4

(2) 事業継続性評価

継続

【一次評価コメント】
子どもたちの安全確保と教育環境の向上の視点から各所改修、トイレ改修及び屋内運動場照明改修事業については継続していく必要がある。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4

(2) 事業継続性評価

継続

【二次評価コメント】
当該事業は、学校施設の老朽化による機能低下、破損等に対する子どもたちの安全確保と教育環境の向上のため必要な事業である。長寿命化改修等に併せて各所改修を実施するなど効率的な事業運営をしているが、緊急的・応急的な改修や施設の原状回復等の小規模改修等の必要性は高いことから、今後も人件費の縮減を含めた業務の改善に取り組みながら、継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策) 2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち 章(基本施策) 2一人ひとりの学ぶ心を大切にすまち 節(施策) 3生涯学習の推進	-	「生涯学習きらめきバンク」を設置し、冊子と市ウェブサイトで情報を提供する。「市政きらめき出前講座」として、市職員がいつでもどこでも講師として出向く。	生涯学習の情報と市政の学習機会を提供することによって、市民の生涯学習の機会の確保を図る。

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
平成8年度に郡山市職員若手政策研究会から「生涯学習きらめきバンク」及び「市政きらめき出前講座」の提案を受けたことにより開始した。	人々のライフスタイルの多様化や情報化社会の到来等による職業訓練等の必要性から、生涯学習の学習ニーズが多様化している。さらに、団塊世代が定年退職を迎えるため、中高年層の余暇時間を利用した学習ニーズが高まっている。	市民の学習ニーズが多様化しており、また、市民参画による市政運営を行う上で市民の市政への理解を啓発する必要性から、当該事業の必要性はますます高まっている。	東日本大震災の影響により、「きらめき出前講座」に震災対策関係のメニューの充実等について要望が寄せられている。また、「生涯学習きらめきバンク」についても、未掲載の講師分野等について要望が寄せられている。

2 事業進捗等(指標等推移)

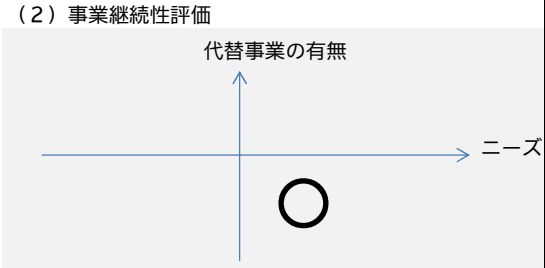
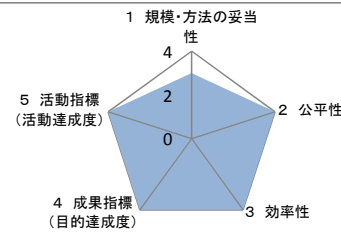
指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
対象指標	市民	人		328,860		335,448	335,000	334,702	335,000		335,000		335,000		335,000	
活動指標①	生涯学習きらめきバンク登録件数	件		275	300	276	300	266	300		300		300		300	
活動指標②	きらめき出前講座メニュー数	講座	100	99	100	104	100	105	100		100		100		100	
活動指標③																
成果指標①	生涯学習きらめきバンク「達人先生」活動件数	回	3,000	2,824	3,000	3,062	3,000	2,478	3,000		3,000		3,000		3,000	
成果指標②	市政きらめき出前講座申込件数	件	250	278	300	261	300	301	300		300		300		300	
成果指標③	市政きらめき出前講座受講者数	人	8,000	10,632	12,000	9,139	12,000	11,449	12,000		12,000		12,000		12,000	
単位コスト(総コストから算出)	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0		0.2	0.1	0.1	0.1		0.1		0.1		0.1	
単位コスト(所要一般財源から算出)	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0		0.2	0.1	0.1	0.1		0.1		0.1		0.1	
事業費		千円		72		5	73	50	73		73		73		73	
人件費		千円		961		1,371	1,371	1,227	1,371		1,371		1,371		1,371	
歳出計(総事業費)		千円		1,033		1,376	1,444	1,277	1,444		1,444		1,444		1,444	
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		1,033		1,376	1,444	1,277	1,444		1,444		1,444		1,444	
歳入計		千円		1,033		1,376	1,444	1,277	1,444		1,444		1,444		1,444	
			実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
生涯学習きらめきバンク登録件数は減少したものの、きらめき出前講座メニュー数は増加している。今後も市政情報を市民に効果的に発信するため、登録件数及びメニュー数の充実を図る。	生涯学習きらめきバンクの活動件数は減少したものの、きらめき出前講座の申込件数及び受講者数は増加しており、市政等への関心が高まっているものと思われる。今後も、市民ニーズに合ったメニューの追加及び広報活動の充実を図る。	出前講座のメニュー数及び受講者数が増加しており、効果的・効率的な運営に努めている。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



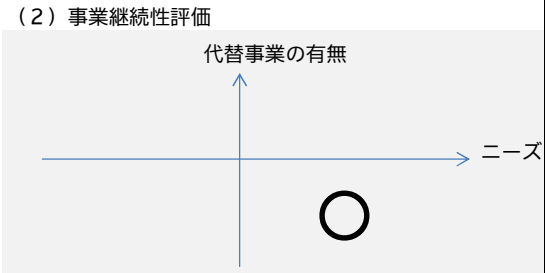
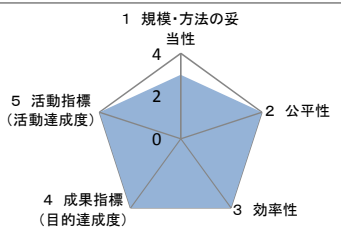
継続

【一次評価コメント】
多様化する市民ニーズに柔軟に対応できる制度となるよう、事業内容を精査しながら継続して実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



継続

【二次評価コメント】
「生涯学習きらめきバンク」については、登録件数、活動件数ともに、前年度と比較減少したが、2,500件弱の活動件数を維持している。「きらめき出前講座」については、平成29年度は、高齢者向けのメニューについて、開催申し込みが高く、受講者数が大きく増加した。ここ数年、受講者のニーズ等により成果は増減しているが、多数の受講者数を維持していることから、今後も継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策)	2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち	△	家庭教育の学習機会を提供する。1家庭教育学習会を開催する。2家庭教育講演会を開催する。3就学前子育て講座を市内全市立小学校の就学前健康診断または入学説明会の際に開催する。4企業を支える親学び講座を開催する。5子育て応援事業を開催する。	家庭教育に関する学習の機会と情報を提供することによって、保護者等が子どもたちの発達段階に応じた行動や考え方を理解し、子どもたちの健全な人格形成や子どもたちを取り巻く環境の改善を促進する。
章(基本施策)	2一人ひとりの学び心を大切にすまち			
節(施策)	1家庭教育の推進			

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
家庭教育学級は、昭和40年代に開始し、昭和57年に全小・中学校に開設した。家庭教育学級の活性化を目的に、家庭教育学習会を実施するようになった。平成13年の社会教育法改正により、教育委員会事務として家庭教育に関する事務が明記され、就学前子育て講座の実施につながった。	核家族化や地域社会との結びつきの希薄化等により、子育てについて悩みを抱える親が多くなっており、家庭教育の学習機会の提供や情報の提供に努めている。また、教育基本法の改正により、家庭教育の支援が自治体の責務となった。	社会全体の規範意識の低下や家族や地域についての価値観の問題など、子どもを取り巻く環境は依然厳しいと思われ、家庭教育の支援はますます重要となってくる。	市民のライフスタイルの多様化により、開催日時・場所等参加しやすい環境づくりが求められている。また、子どもの様々なトラブルからの安全確保、食育、職業意識など家庭教育の現代的な課題への学習ニーズが増加傾向にある。

2 事業進捗等(指標等推移)

指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
対象指標	市内の中学生以下の子どもを持つ家族	世帯				13,000	13,000	12,000	13,000		13,000		13,000		13,000	
活動指標①	家庭教育各種講座実施回数	回	600	580	660	518	660	529	660		660		660		660	
活動指標②	学級数	学級	86	86	85	85	85	80	85		85		85		85	
活動指標③																
成果指標①	市民対象講演会への参加人数	人	3,800	2,839	3,000	2,860	3,000	2,777	3,000		3,000		3,000		3,000	
成果指標②	家庭教育学級参加者数(のべ)	人	17,000	17,282	17,000	15,494	17,000	16,051	17,000		17,000		17,000		17,000	
成果指標③	全事業のべ参加者数	人	20,800	20,121	20,000	18,354	20,000	18,828	20,000		20,000		20,000		20,000	
単位コスト(総コストから算出)	参加者1人あたりのコスト	千円		0.3		0.4		0.3								
単位コスト(所要一般財源から算出)	参加者1人あたりのコスト	千円		0.3		0.2		0.2								
事業費		千円		3,244		3,081		2,633	4,694		4,694		4,694		4,694	
人件費		千円		3,391		3,566		2,621	3,566		3,566		3,566		3,566	
歳出計(総事業費)		千円		6,635		6,647		5,254	8,260		8,260		8,260		8,260	
国・県支出金		千円		1,400		2,922		2,426	4,427		1,475		1,475		1,475	
市債		千円							0		0		0		0	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円							0		0		0		0	
その他		千円							0		0		0		0	
一般財源等		千円		5,235		3,725		2,828	267		3,219		3,219		3,219	
歳入計		千円		6,635		6,647		5,254	4,694		4,694		4,694		4,694	
			実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続							

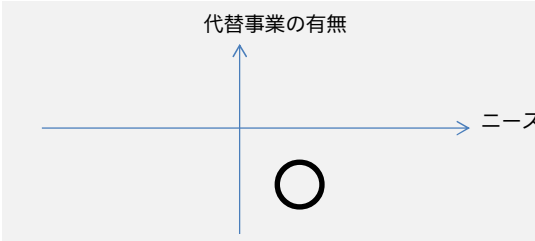
活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
実施回数は前年度と同程度となっている。	参加者数は前年度より増加している。	家庭教育学級数の減少や、社会教育指導員等内部講師を活用した講座があったことなどから事業費、人件費ともに減少している。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4

(2) 事業継続性評価



継続

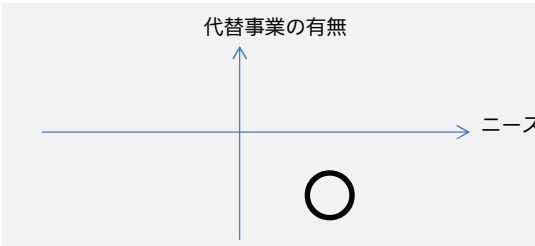
【一次評価コメント】
本事業は家庭・学校・地域の連携を図る事業として必要とされており、今後さらに家庭・地域の教育力の向上を図るため継続して実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4

(2) 事業継続性評価



継続

【二次評価コメント】
家庭教育学級は、全市立学校に設置されており、各学校によって活動内容はさまざまである。事業費は、開催の有無による教室数の増減、講師による謝礼等で増減するものであり、平成29年度は、事業費、人件費ともに減少した。一方、全事業の延べ参加者数は、約19,000人の参加者が維持されていることから、今後も継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策)	2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち	-	式典とアトラクションを実施する。記念品、成人証書を配布する。	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ますとともに、互いに祝福しあい、夢と希望を語り合うつどいの場として郡山市成人のつどいを開催する。
章(基本施策)	2一人ひとりの学ぶ心を大切にすまち			
節(施策)	2青少年の健全育成			

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
成人を迎える青少年に対して、大人としての自覚と社会の一員としての意識啓発を図るための場が求められていた。	ライフスタイルの多様化等により、社会人としての自覚を促す機会の充実が求められている。	ライフスタイルが多様化していくことが予想される。また、成人年齢の見直しが予定されており、年齢が変更となった場合の事業のあり方について検討が必要である。	行政サービスのPRを促進するよう要望がある。式典本来の意味合いが伝わるよう、プログラム構成や会場設営について、より参加者の視点に立った配置が要望されている。

2 事業進捗等(指標等推移)

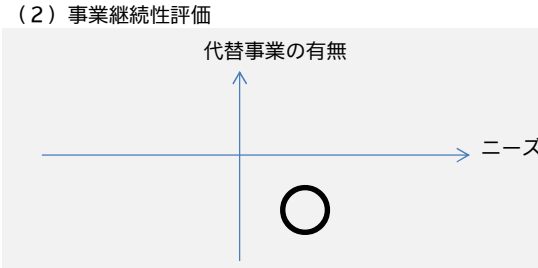
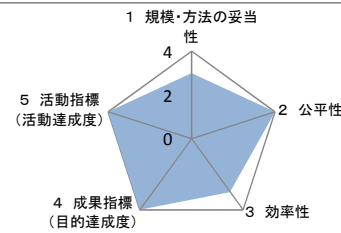
指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
対象指標	新成人者数	人		3,841		3,677	3,600	3,602	3,476		3,639		3,606		3,522	
活動指標①	参加人数	人		2,785	2,757	2,778	2,700	2,684	2,642		2,802		2,813		2,782	
活動指標②																
活動指標③																
成果指標①	参加率	%	75	73	75	76	75	75	76		77		78		79	
成果指標②																
成果指標③																
単位コスト(総コストから算出)	参加者1人あたりのコスト	千円		5		4.4		4.7	5.0		4.7		4.7		4.8	
単位コスト(所要一般財源から算出)	参加者1人あたりのコスト	千円		5		4.4		4.7	4.0		3.8		3.8		3.8	
事業費		千円		10,711		9,706		9,631	10,609		10,609		10,609		10,609	
人件費		千円		3,130		2,686		2,994	2,686		2,686		2,686		2,686	
歳出計(総事業費)		千円		13,841		12,392		12,625	13,295		13,295		13,295		13,295	
国・県支出金		千円						0	0		0		0		0	
市債		千円						0	0		0		0		0	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円						0	0		0		0		0	
その他		千円						0	0		0		0		0	
一般財源等		千円		13,841		12,392		12,625	10,609		10,609		10,609		10,609	
歳入計		千円		13,841		12,392		12,625	10,609		10,609		10,609		10,609	
			実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
微減ではあるが、減少傾向にある。	毎年同程度の参加率で推移している。	事業運営に係る消耗品費等の圧縮に努めることにより事業費の増加を抑え、より魅力のある事業の実施に努めている。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



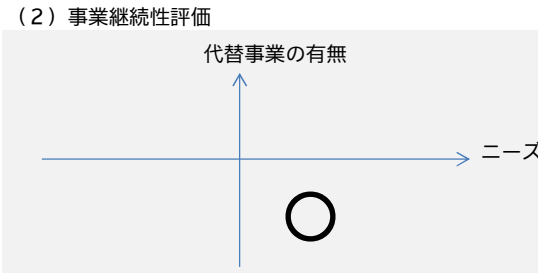
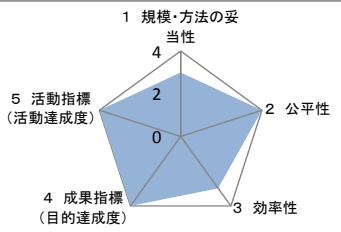
継続

【一次評価コメント】
 新成人を祝い励ますとともに、自主性や社会性を持った地域社会の一員として自覚を促す事業であり、人生の節目として認知され参加率も高いことから継続して実施する。
 なお、事業の企画内容については、新成人に近い年齢層の企画委員からの意見を取り入れ実施していく。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



継続

【二次評価コメント】
 成人のつどいは、企画委員により事業内容を検討し、イベントは委託により実施している。少子化の影響もあり、参加人数は減少傾向にあるが、参加割合はほぼ横ばい状態で推移していることから、高い需要が推測される。
 今後も、新成人のニーズ、規模に合った事業内容を検討しながら継続して事業を実施する。
 また、2022年に成人年齢が18歳に引き下げられることへの対応等についても検討する必要がある。

1 事業概要

政策体系	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策) 2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち	-	明るいまちづくり推進委員会協議会へ負担金を交付するほか、花いっぱい運動や川柳コンクールなど啓発活動を行っている。	明るいまちづくりのための運動を推進するとともに、コミュニティ活動の活性化及び住民主体によるコミュニティ活動の促進を図る。
章(基本施策) 2一人ひとりの学ぶ心を大切にすまち			
節(施策) 3生涯学習の推進			

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
昭和44年当時、高度成長の中で市民生活が豊かになる一方、モラルの欠如からくる青少年の不良化、交通事故の増加などが社会問題となっていたことから、市が「明るいまちづくり運動」を提唱し開始した。	セーフコミュニティ活動のひとつとして、安全安心なまちづくりについて地域住民の連携協力が求められている。	少子高齢化や核家族化が進んでいることもあり、「世代間交流」がキーワードになると考えられる。	花いっぱいコンクールに代表されるように環境整備に関する関心が高まっている。また近年の社会情勢の変化及び東日本大震災の経験から、地域のコミュニティづくりについての関心がより高まってきている。また、花苗をもっと増やしてほしいという要望がある。

2 事業進捗等(指標等推移)

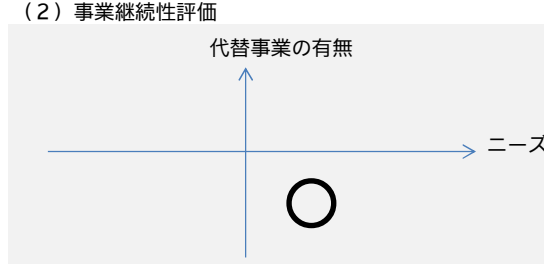
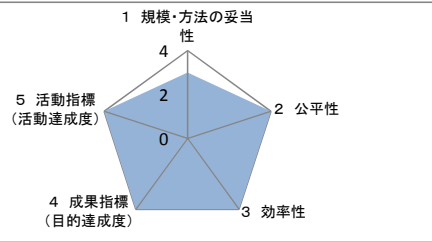
指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
対象指標	市民地区	人		328860		335493	335,493	334702	335,493		335,493		335,493		335,493	
活動指標①	花苗配付数	本		9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000		9,000		9,000		9,000	
活動指標②	危険箇所表示板設置数	基		100	100	100										
活動指標③	コロナビこおりやま発行部数	部					2,500	2,500	2,500		2,500		2,500		2,500	
成果指標①	花いっぱいコンクール参加団体	団体	300	305	310	300	300	302	300		300		300		300	
成果指標②																
成果指標③																
単位コスト(総コストから算出)	1地区あたりのコスト	千円		293		282		270	279		279		279		279	
単位コスト(所要一般財源から算出)	1地区あたりのコスト	千円		293		282		270	205		205		205		205	
事業費		千円		7,348		7,266		7,056	7,147		7,147		7,147		7,147	
人件費		千円		2,911		2,614		2,410	2,614		2,614		2,614		2,614	
歳出計(総事業費)		千円		10,259		9,880		9,466	9,761		9,761		9,761		9,761	
国・県支出金		千円							0		0		0		0	
市債		千円							0		0		0		0	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円							0		0		0		0	
その他		千円							0		0		0		0	
一般財源等		千円		10,259		9,880		9,466	7,164		7,164		7,164		7,164	
歳入計		千円		10,259		9,880		9,466	7,164		7,164		7,164		7,164	
			実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
花苗の配布数は、予定数を配布した。なお、地域からは約2万本の配布希望があるため、十分に対応できていない。危険箇所表示板設置事業を廃止し、「コロナビこおりやま」パンフレットを作成した。	花いっぱいコンクールの参加団体が、2団体増加した。	効果的・効率的な事業運営に努めている。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



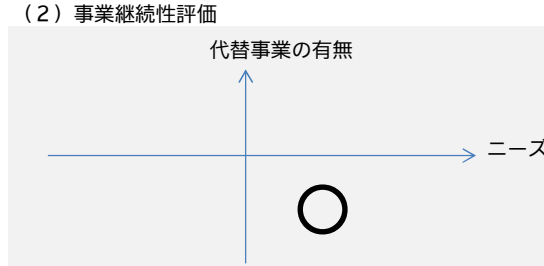
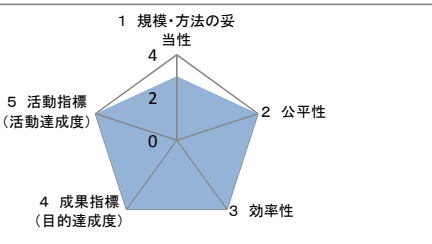
継続

【一次評価コメント】
東日本大震災以降、地域コミュニティの重要性が再認識され、安全安心なまちづくりへの意識の高まりによりセーフコミュニティ活動の推進が図られていることから、事業内容の精査を行いながら継続して実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



継続

【二次評価コメント】
明るいまちづくり推進委員会協議会へ負担金を交付し、花いっぱい運動等の事業を実施し、「コロナビこおりやま」を活用することで、「危険箇所表示板設置」に代えるなど活動を見直していることから、継続して事業を実施する。
なお、事業開始時(昭和44年)の周辺環境と比較して、周辺状況の現状は、大きく変わってきていることから、事業の方向性について検討する必要がある。

1 事業概要

政策体系		広域事業	手段	意図(目的)
大綱(政策)	2ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち	-	市内41の地区・地域公民館において、青少年の健全育成や高齢者の生きがいづくりなど、市民の多様な学習ニーズに対応する定期講座等を開設する。また、学習ニーズによる教養的な講座だけではなく、地域コミュニティの核となる人材育成や世代間交流などの事業を実施し、生涯学習の推進とともに、地域づくりの推進を図る。	子どもから高齢者までの各世代の学習ニーズに応じた各種講座等の開催により、市民の自主的な生涯学習活動及び地域に根ざした学習活動を支援する。
章(基本施策)	2一人ひとりの学ぶ心を大切にすまち			
節(施策)	3生涯学習の推進			

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
社会の急速な変化に対応して、日常生活に必要な知識や技能の習得と個人の持つ関心や興味を喚起させ、自己啓発を図るとともに、集団による学習の場を設けて学習者の仲間作りを促進する必要があった。	生涯学習の拠点として公民館は広く認知されており、市民が気軽に趣味や教養を学ぶための定期講座等は毎年一定の需要がある。地域づくりの拠点としても公民館は中心的な役割を担っており、地域づくりを目的とした講座等が活発に行われており、また、ICTの急速な発展・広がりにより、デジタル教材を活用した自己学習も普及している。	都市化や過疎化、少子高齢化により、公民館の事業に参加する世代に偏りが見られる地区があり、今後は全市民的な課題となると思われる。市民が必要としている課題等を的確に把握し、市民のニーズと地域の課題をふまえた講座等の実施が必要である。また、講座をネット中継・配信し、場所・時間に左右されない事業展開をする必要がある。	事業をきっかけとして、地域のボランティア組織の設立等につながった例もあることから、きっかけを探している人材が多いと考える。

2 事業進捗等(指標等推移)

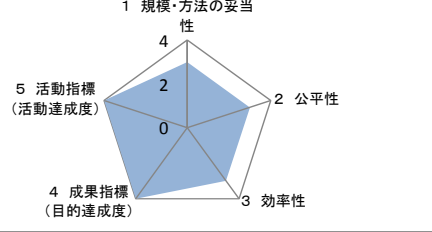
指標名	指標名	単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
対象指標	市民	人		327,296		334,448	335,000	334,702	335,000		335,000		335,000		335,000	
活動指標①	講座開催数	回	312	296	312	296	250	291	250		250		250		250	
活動指標②																
活動指標③																
成果指標①	講座受講者数(延べ人数)	人	24,960	30,531	24,960	30,624	24,960	28,399	24,960		24,960		24,960		24,960	
成果指標②	受講者満足度	%	100	91	100	93	100	93	100		100		100		100	
成果指標③																
単位コスト(総コストから算出)	受講者1人あたりのコスト	千円		3.6		3.8		4.1	4.7		4.7		4.7		4.7	
単位コスト(所要一般財源から算出)	受講者1人あたりのコスト	千円		3.6		3.8		4.1	0.7		0.7		0.7		0.7	
事業費		千円		10,707		17,369		17,391	19,293		19,293		19,293		19,293	
人件費		千円		99,229		98,970		98,663	98,970		98,970		98,970		98,970	
歳出計(総事業費)		千円		109,936		116,339		116,054	118,263		118,263		118,263		118,263	
国・県支出金		千円							0		0		0		0	
市債		千円							0		0		0		0	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円		730		721		617	956		956		956		956	
その他		千円							0		0		0		0	
一般財源等		千円		109,206		115,618		115,437	18,337		18,337		18,337		18,337	
歳入計		千円		109,936		116,339		116,054	19,293		19,293		19,293		19,293	
			実計区分	評価結果	継続	改善	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費分析結果
厳しい財政状況の中、趣味・教養に関する講座を精査し、地域課題等に取り組む講座にシフトし、開催回数は昨年と同程度となっている。	受講者数は横ばいである。	人件費が減少したことにより、事業費は前年と比較し減額となった。

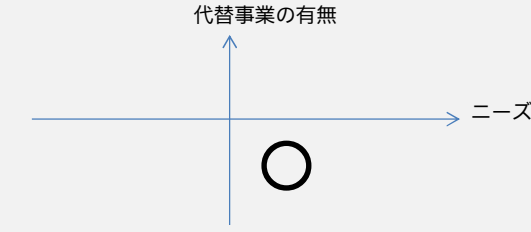
3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	3
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



(2) 事業継続性評価



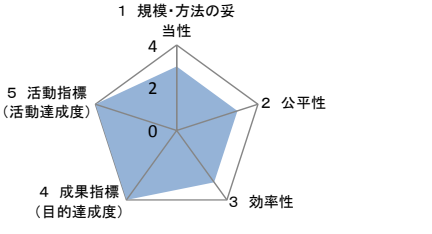
継続

【一次評価コメント】
各公民館において、地域課題解決を意識した講座を行うことにより、地域活性化を促す取組みが各地で展開されている。今後は、各公民館の事業量や事業の必要性、役割等を精査し、効率的でバランスのとれた事業運営を図りながら継続して実施する。

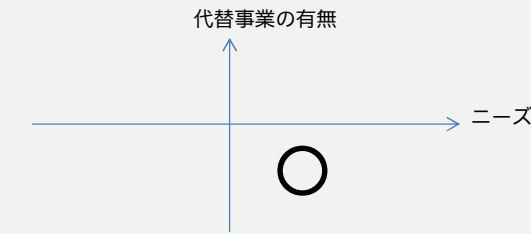
4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	3
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	4
5 活動指標(活動達成度)	4



(2) 事業継続性評価



継続

【二次評価コメント】
各公民館において、各種講座を開催しているが、内容についても見直し、受益者負担にふさわしい講座では、負担金を徴しながら実施しており、30,000人近い利用者がいること、受講者の満足度も高いことから、今後も継続して事業を実施する。
なお、単位コストは年々増加傾向にあることから、効率的な事業運営について検討する必要がある。

1 事業概要

Table with 4 columns: 政策体系, 広域事業, 手段, 意図(目的). Contains details about the project's policy, scope, methods, and objectives.

Table with 4 columns: 事業開始時周辺環境(背景), 現状周辺環境, 今後周辺環境(予測), 住民意向分析. Provides context and future outlook for the project.

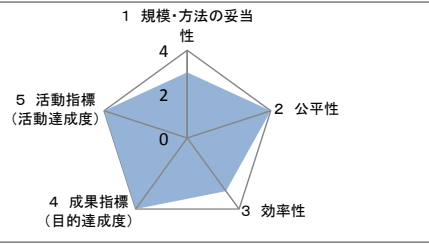
2 事業進捗等(指標等推移)

Large data table showing performance metrics from Heisei 27 to Heisei 33. Includes columns for target and actual values for various indicators like participation numbers and costs.

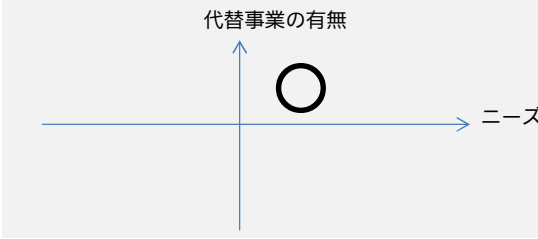
Table with 3 columns: 活動指標分析結果, 成果指標分析結果, 総事業費分析結果. Analyzes activity, outcome, and total cost indicators.

3 一次評価(部局内評価)

Table for primary evaluation criteria: 1 規模・方法の妥当性, 2 公平性, 3 効率性, 4 成果指標(目的達成度), 5 活動指標(活動達成度).



(2) 事業継続性評価

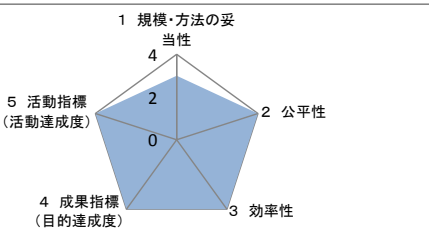


継続

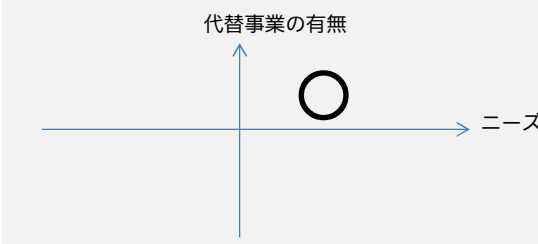
【一次評価コメント】事業プログラムの内容も充実し、開催が定着しているが、震災からの復興が進む状況もあることから、事業趣旨や手法の見直しを行うなど精査し実施する。

4 二次評価

Table for secondary evaluation criteria: 1 規模・方法の妥当性, 2 公平性, 3 効率性, 4 成果指標(目的達成度), 5 活動指標(活動達成度).



(2) 事業継続性評価



完了

【二次評価コメント】原子力発電所の事故により屋外制限されている子どもたちが、週末や夏休み期間中に恵まれた自然環境の中で活動することを目的として創設された事業であり、震災から7年が経過した現在も利用者は増加傾向でニーズの高さがうかがえる。しかしながら、事業を直営で実施しているため、人件費が高い傾向にある。今後においては、民間ノウハウの活用によるさらなる「事業の効率化」等が必要不可欠であることから、平成31年度から「指定管理者制度」を導入する「少年湖畔の村」の提案事業として事業を実施し、市における当該事業の実施を完了とする。